



第27代理事長 就任挨拶 理事長就任にあたって

日鉄ドラム株式会社
代表取締役社長 近松 幸士郎



去る5月23日の総会において、藤井前理事長の後任として、第27代理事長に就任いたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。

国内外の情勢、国内外の経済動向

2023年度の日本経済は、長引くウクライナ紛争およびパレスチナでの武力衝突を背景とするエネルギー価格高止まりおよび円安進行等に伴う物価の高騰により実質賃金水準はマイナスが継続し、個人消費は低迷しました。加えて、当会にとって最大の需要セグメントである石油化学業界では、中国における経済回復の遅延並びに基礎化学品・汎用誘導品の大規模な設備能力増強により需給環境が大幅に悪化し、指標となるエチレン生産量で2023年度は527万トン(対前年度▲3.6%減)となりました。その結果、2023年度の200Lドラム缶およびペール缶の出荷本数は、各々1,234万缶(対前年度比▲3.7%減)、1,687万缶(対前年度比▲6.9%減)となりました。

2024年度を展望しますと、2021年度のペントアップ需要発生以降長引いていた在庫調整がようやく終了し、また、2024年度春闘において5%台の賃金改善(定昇込み)が実現したことで、今後、実質賃金改善による個人消費の回復が期待されます。一方で、中国における基礎化学品・汎用誘導品の構造的需給ギャップは更に拡大し、日本における基礎化学品・汎用誘導品分野の再編・統合、高機能化学品への経営資源の集中が加速することが想定されます。このように、当会を取り巻く事業環境は、リスクとチャンスが併存する状況にあると言えます。

工業会としての重点的な取組み

1. カーボンニュートラル・循環型社会実現に向けてドラム缶が持つ環境価値の訴求

ドラム缶は、新缶メーカー、更生缶メーカー、鉄スクラップ業者および鉄鋼メーカー等から構成される歴史的に確立した且つ効率的な資源循環エコシステムを有する産業容器です。実質的なリサイクル率はほぼ100%であり、他素材を使用した産業容器と比較して、ドラム缶はカーボンニュートラル・循環型社会実現に向けて環境価値面で大きな優位性を持っています。当会として、今般リニューアルしたHP等を通じて、引き続き積極的なPR活動を展開します。

2. 物流2024年問題に対応した持続可能な物流体制構築に向けた取組み継続

当会は、経済産業省・国土交通省が主導する「フィジカルインターネット実現会議」内に設置された化学品WGに2023年10月よりオブザーバーとして参加しています。これにより、主要需要業界である化学品業界のパレット標準化等の自主行動計画やアクションプラン策定の動向を把握すると共に、ドラム缶・ペール缶の空缶物流効率化に資する要請事項を文章として取り纏め、化学品WGの全体会合にて説明してご理解ご協力を得る活動を進めて来ました。引き続き、サプライチェーン全体として持続可能な物流体制構築に向けて積極的な情報収集・発信に取り組めます。

3. 国際活動の展開

第11回AOSD国際会議を2024年4月22日から24日まで3日間の日程で韓国の仁川で開催しました。「Steel Drums: A Step Towards Global Sustainability」をテーマに19カ国から220名の参加者を得て、会員各国の市場動向並びにテーマに沿った16件の技術テーマの発表を行い、極めて意義深いものとなりました。引き続き、ICDMおよびAOSDというプラットフォームを通じて、業界の国際的な協力・発展に寄与していきます。

以上、理事長就任にあたり、皆様方のご協力・ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

しびき



CONTENTS

1 新理事長挨拶

2 2024年度役員・委員長の紹介

3 新社長紹介 日鉄ドラム(株) 近松 幸士郎

4 独占禁止法順守研修会

5 温室効果ガス排出量算定方法に関するJSDA標準

6 工業会HPリニューアル

7 第11回AOSD国際会議開催報告・AOSD役員会報告

8 ドラム缶工業会の安全活動

9 ペール委員会工場見学会レポート

10 鋼製ドラムは「リサイクルの優等生」

11 ドラム缶・ペール缶の2023年度出荷実績

12 200Lドラム缶市場動向推移

2024年度 役員・委員長の紹介

2024年6月26日現在

■ 理事長		近松 幸士郎	日鉄ドラム (株)	代表取締役社長
■ 副理事長	● 200L缶関係	関谷 慶宣	JFEコンテナ (株)	代表取締役社長
	● 中小型缶関係	吉岡 正俊	ダイカン (株)	代表取締役社長
	● ペール缶関係	長尾 浩志	(株)長尾製缶所	代表取締役社長
■ 常任理事	■ 兼監事	大淵 泰宏	(株)ジャパンペール	代表取締役社長
	■ 兼監事	今井 久代	(株)東京ドラム罐製作所	代表取締役社長
		内藤 誠	斎藤ドラム罐工業 (株)	代表取締役社長
		金子 賢三	新邦工業 (株)	代表取締役社長
		鈴木 康友	東邦シートフレーム (株)	代表取締役社長
		前田 洋子	(株)前田製作所	代表取締役社長
		山本 和男	(株)山本工作所	代表取締役社長
■ 委員長	● 企画・統計委員会	松田 浩	日鉄ドラム (株)	取締役常務執行役員 管理本部長
	● 技術委員会	木原 幹人	JFEコンテナ (株)	常務取締役
	● ペール委員会	藤田 智志	(株)長尾製缶所	製造本部 千葉工場長
	● 安全委員会	平田 秀樹	(株)山本工作所	プロダクト事業本部 チーフマネージャー
■ 事務局長		廣川 二郎	ドラム缶工業会	常務理事

新社長登場



日鉄ドラム株式会社 近松 幸士郎

本年4月より藤井前社長の後任として就任いたしました。社長の重責に身が引き締まる思いです。

簡単に自己紹介をします。1962年生、京都府京都市出身。1985年に新日本製鉄(現日本製鉄)入社し、前半は主に鋼管営業部門、後半は中国およびベトナムで海外JVの経営に携わりました。

日鉄ドラムは、その前身を含めて90年に及ぶ歴史の中で、石油化学品向けをはじめとして様々な用途向けに高品質のドラム缶を安定供給して来ました。この輝かしい伝統を継承し、更に発展させていきたいと考えています。

中国における基礎化学品・汎用誘導品の大規模な能力増強等を背景として、日本の石油化学業界では、基礎化学品・汎用誘導品分野での再編・統合が加速する一方で、技術優位性が発揮できる高機能化学品への経営資源の集中が同時進行しています。ドラム缶にも新たなニーズに対応した商品・サービスが求められています。

もう一つのトレンドはCNおよび循環型経済社会の実現です。ドラム缶は実質100%資源循環されるサーキュラーエコノミーの優等生です。「人々の暮らしを支える産業容器として社会に貢献し、環境にも優しいドラム缶」。この優位性を工業会メンバーの皆様と協力して積極的にPRしたいと思っております。

どうぞよろしくお願ひいたします。

独占禁止法順守研修会



開催日:2024年7月25日(木) 会場:鉄鋼会館(リモート中継)

講師:多田 敏明 弁護士

ドラム缶工業会が毎年行っている独占禁止法順守研修会は、今年度は7月25日(木)に日比谷総合法律事務所の多田敏明弁護士を講師に迎え、昨年と同様にリモート中継も併用したハイブリッド方式で開催し合わせて約150名が出席しました。

前半では、毎年繰返し確認している独占禁止法の目的と仕組み、カルテルの構造、制裁、リニエンシー制度や昨今の重要な事例について説明いただきました。また、再生品代理店との関係における留意点についても言及がありました。後半では、政府の「転嫁円滑化施策パッケージ」の一環として、2023年11月に公表された「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」に関する公正取引委員会と中小企業庁の取組みが紹介され、2024年の物流問題に関連した内容も含めて会員が理解しておくべきポイントの解説をいただきました。



価格交渉に関する指針は、単に公表内容を読むだけでは実務上の注意点を把握しがたく、その背景や具体的に想定されるケースを多田先生に丁寧に説明いただいたことは、会員にとって非常に有意義で、実りある研修会となりました。

「温室効果ガス排出量算定方法に関するJSDA標準」 を制定しました。

世界的な規制と環境意識の高まりを受け、ドラム缶工業会の会員企業に対するCO₂排出量の削減と算定の要求が増加しています。この課題に対応するため、ドラム缶工業会は技術委員会内にワーキンググループを結成し、200L鋼製ドラム缶の製造に関する温室効果ガス(CO₂)排出量の算定方法に関する標準を作成し、本年4月に制定しました。この標準は、環境省および経済産業省が運営する情報プラットフォーム「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム」の排出量算定ガイドラインに基づいています。

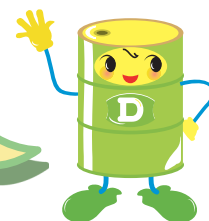
JSDA標準では、スコープ1および2については各種エネルギー、スコープ3については主要な使用部材について、主に公表されたデータに基づいてCO₂排出量を算出するための原単位を開示しています。JSDA会員企業は、この原単位に各事業所の使用量を乗じることで、それぞれのCO₂排出量を正確かつ一貫性のある方法で報告することができます。

ドラム缶工業会は、このような取組みを通じて、鋼製ドラムの製造における環境持続可能性の向上を支援してまいります。



◀ 本JSDA標準の文書は2次元コードからご覧いただけます。

ドラム缶工業会のホームページを リニューアルしました!



ドラム缶工業会では、2015年以来初の大幅なホームページリニューアルを行い、6月末に公開しました。新しいホームページでは、用語集やドラム缶・パール缶に関するコンテンツへのアクセス性を向上させ、ユーザーの使いやすさを重視しました。また、全体のデザインも親しみやすく変更し、会員企業の採用情報や女性活躍、SDGsへの取組みなど新しいコンテンツも追加しました。これにより、多くの方にドラム缶・パール缶業界に興味を持っていただける内容となっています。このリニューアルには、会員企業から選出されたメンバーが半年以上にわたりデザインやコンテンツを検討し、完成に至りました。

今後もこのホームページを活用して業界情報の発信と会員企業のサポートを強化していきます。ぜひご覧ください。



URL: <https://www.jsda.gr.jp/>

新HPIはこちらの
2次元コードから



第11回 AOSD国際会議を開催しました

去る4月22日から24日の3日間かけ、韓国の仁川で第11回AOSD（アジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会）国際会議を開催しました。AOSD国際会議は1991年に第1回が東京で開催され、その後AOSD各国が持ち回りで3年に1度開催していますが、前回2019年の中国・蘇州大会以来、コロナ禍により約4年半ぶりの開催となりました。

今回は「鋼製ドラム：グローバルな持続可能性実現への一歩」をテーマに、19カ国から220人が参加しました。会議では、各国の統計や業界動向に関する発表6件と技術発表16件が行われ、各国のカーボンニュートラルや環境問題への高い関心が伺えました。特に、ドラム缶製造設備に関する技術発表の中では、ICT（情報通信技術）を活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）を意識した内容が目立ち、特徴的でした。

最終日の午後は今回のホスト会社であるInsung社のDangjin（唐津）工場を見学しました。また、会議場の近くには8つの展示ブースが設置され、韓国、中国、インド、タイ、イタリア、ベルギーのドラム缶製造設備や部品・素材メーカーの展示説明も行われ、参加者にとって非常に有益な国際会議となりました。

ドラム缶工業会では、今後も国際会議や海外視察を通じて情報収集を行い、会員の環境対応や製造技術向上等に貢献したいと考えています。

以下は今回の国際会議のプログラムの概要です。

1. 開会および来賓挨拶ならびに独禁法の遵守

藤井AOSD会長（兼、ドラム缶工業会理事長）、柳Insung社会長、スタビック米国ドラム缶工業会（ISDI）会長、リナルディニ欧州ドラム缶工業会（SEFA）会長、廣川事務局長（独禁法の遵守について）

2. マーケット概況、地域別生産統計の報告

米国、欧州、日本、インド、中国、ならびにICDM（米・欧・亜の工業会役員会）

3. 技術発表

1) 鋼製ドラム製造におけるSDGsの取組み

- ①韓国での鋼製ドラムのサステナビリティの方向性：Insung社のリサイクルの推進、軽量化、水性塗料の採用・重金属フリー化、サーボモーター導入による油圧オイル低減、安全の確保と安全教育の実施等。
- ②JSDA（ドラム缶工業会）のSDGs活動：斎藤ドラムより、TOKYO PACK 2022の出展内容から、鋼製ドラムは世界に流通する産業容器で3Rの優等生、標準色設定等によるVOC削減や重金属フリー化、自然災害時の復旧支援物資としての貢献等を紹介。

③中国における鋼製ドラムのリサイクルと持続可能な開発：中国ドラム缶業界での、新缶製造や再生設備への新しいプロセス技術の開発導入によるリサイクル率向上への取組み（現状 20%未満）。

④鋼製ペール製造における環境負荷軽減：ジャパンペールが、胴溶接部の補正塗装の設備更新により、塗料・シンナーの使用量と廃棄物量や乾燥炉燃料の削減を実現したことを報告。

⑤POSCOのグローバル・サステナビリティの進捗と計画：今回のメインスポンサーであるPOSCOの2050年までのカーボンニュートラルのロードマップの紹介。技術ソリューションの例としてフォーミングシミュレーションによるドラム座屈解決への材料提案。

⑥ドラム缶化成処理の今後の展開：日本パーカラライジングより、環境対応型化成処理の最新動向として、ジルコニウム化成処理と塗布型塗装下地の開発によって化成処理における環境負荷低減が可能であることを報告。

⑦洗浄プロセスのサステナビリティと洗浄溶剤の再利用：イタリアのIST社から、自動クローズサイクル洗浄による高効率で作業者に安全な洗浄システムの紹介。蒸留処理により溶剤を95%以上回収でき、再利用が可能。

⑧ドラム製造におけるBalmer Lawrieのグリーンアプローチ：鋼板の薄肉化、塗料等のその他原材料や生産工程



参加者全員での記念撮影



司会の廣川事務局長

会議場の様子

Kiyosumi Fujii Chairman Association of Asia-Oceania Steel Drum Manufacturers



藤井AOSD会長(当時)



ホスト国の柳Insung社会長



近松 企画・統計委員長
(当時)



斎藤ドラムの寒川さん



ジャパンペールの西さん



日本パーカライジングの児玉さん



JFEコンテナの村上さん



日鉄ドラムの高橋さん



藤井会長が次回国際会議の2027年日本開催を報告

の改善、溶接工程での消費電力削減、塗装消費量低減等による、グループ全社でのCO₂削減や環境負荷軽減への取組み。

- ⑨JSDA (ドラム缶工業会) の安全活動: JFEコンテナが、ドラム缶工業会の安全への取組みについて、安全委員会の設置、安全成績の推移、各社の災害報告の共有による類災防止活動、安全委員会での災害分析や相互事例発表会の実施とその内容を紹介。

2) ドラム缶製造設備、新技術

- ① 高速インテリジェント鋼製ドラム生産ライン: 中国EMDRUM社のサーボモーター、分散制御システム等の新技術、垂直型のドラム製造ラインの各種装置の紹介。
- ② 高度な自動化と柔軟性を備えたインテリジェントドラムライン: 中国Fivestar社の、多品種少量生産や厳しい品質要求、人件費抑制等に応えるドラム胴板や端部機械、自動溶接機、横型成形機などを含む新型製造設備の紹介。

- ③ 最新の溶接設備: ベルギーArplas社から、溶接ヘッド、ロール、タイミングベルト、銅電極等に多くの先進機能を搭載し、品質向上とコストダウンを可能にしたサイドシームドラム溶接機等の紹介。
- ④ ドラム製造ラインのデジタルトランスフォーメーション: 中国New Green社の、デジタル化、ネットワーク化および技術革新を用いた、効率化と省エネおよび品質確保を実現する製造設備の紹介。
- ⑤ 柳井新工場の建設: 日鉄ドラムは、2022年12月商業生産開始の新工場において、ブランキング、外面塗装ライン、乾燥炉等の主要生産設備での新方式導入により環境負荷軽減を達成。
- ⑥ 鋼製ドラムのシーリング: 中国の揚州興安ラバー・プラスチック社による発泡、非発泡等のゴム素材を用いたドラム缶用バンドの新製品紹介。
- ⑦ ヘリウムテスター技術: 上海Size Test & Control Technology社の技術説明。処理速度、最小検出リーク、コスト削減で、中国内外で15年間に8億缶の検出実績。

AOSD役員会を開催しました (2024年4月仁川にて)

AOSD国際会議に先立ち、4月22日に日本、韓国、インド、中国、タイからの役員が参加し年次役員会を開催しました。競争法遵守の確認の下で、各国における生産の状況説明や環境問題などの国際間での共通の課題について意見交換を行いました。2023年の生産統計は、インドのみが前年比プラス、その他の国は前年比マイナス或いは横ばいとなりました。会議では日本から、本年4月に制定した「鋼製ドラム缶に関わる温室効果ガス排出量算定方法のJSDA標準」を英語版で紹介し、各国から大きな関心が寄せられました。また、次回第12回AOSD国際会議を2027年秋に日本で開催することを決定しました。

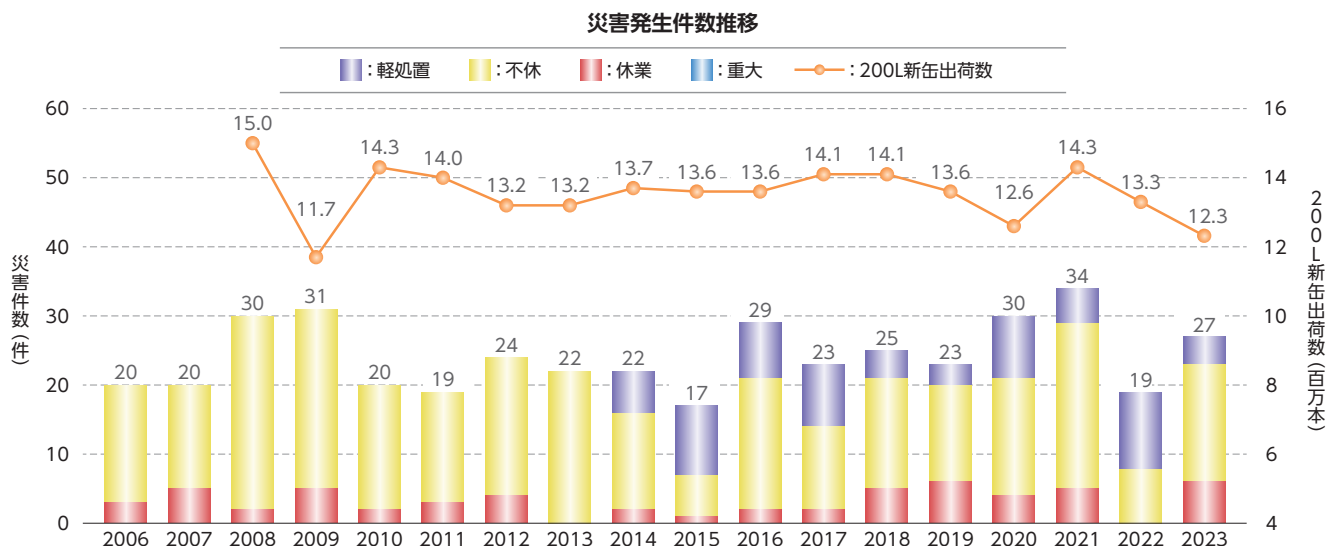


役員会出席者の集合写真

ドラム缶工業会の安全活動

ドラム缶工業会では、2006年より会員各社の労働災害事例を共有し、類似災害の撲滅活動を推進しています。

2023年の安全成績および安全委員会の相互事例発表活動



グラフは会員各社での労働災害の発生状況です。2023年の労災発生は27件で、前年より8件増加となり再び2021年以前のレベルに戻る結果となりました。加えて休業災害が6件と大幅増加し内容も悪化するなど課題が残る1年となりました。

ドラム缶工業会は、毎年7月に各社の安全衛生活動の取組みについての事例発表会を行っています。本年は7月5日に対面（鉄鋼会館）とリモートを併用して開催しました。以下は、各社の発表テーマです。

- 1) 安全衛生管理計画、挟まれ・巻き込まれ対策 山本工作所
- 2) 金属工場 塗装乾燥炉熱気臭気対策工事 前田製作所
- 3) シーマーロール・チャックリング交換作業 日鉄ドラム
- 4) 安全への取組み等（新人教育、過去災害分析） 長尾製缶所
- 5) 安全活動の取組み（組織、パトロール、安全活動、熱中症） 東邦シートフレーム
- 6) 事務所照度、熱中症対策 東京ドラム罐製作所
- 7) 安全への取組み、作業環境改善 ダイカン
- 8) 運転停止釦&寸動釦 新邦工業
- 9) 2023年度安全衛生活動 概略トピックス ジャパンペール
- 10) 川崎工場 溶接潰し機の安全化 JFEコンテナ
- 11) 安全活動、熱中症対策 斎藤ドラム罐工業



事例発表会の光景



発表では、昨年の事故の型別で多かった、挟まれ・巻き込まれの対策に重点をおいた内容が多く見受けられました。熱中症に関する発表も多く、熱源の効率的な排気対策や水分補給に対する工夫の報告がありました。また、災害事例を基にした発表や各社の安全活動の取組みが写真で紹介され分かり易い内容になっていました。安全委員会としては、安全成績を良くするだけではなく、会員各社の全社員の安全意識を高め、若年者など経験の浅い方の災害、挟まれ・巻き込まれ災害などの撲滅に取り組みます。

ペール委員会工場見学会レポート

AGF鈴鹿株式会社様 (三重県鈴鹿市)

ドラム缶工業会のペール委員会は4社(7工場)で構成されています。ペール委員会は「オートメーション技術の調査」の活動として、異業種の優れた品質・生産管理を学ぶ為の工場見学会を開催しています。コロナ禍で一時中断していましたが、今回、5年ぶりの開催となりました。

日時: 2024年6月14日(金) 午後1時~午後3時

見学場所: AGF鈴鹿株式会社

見学参加者: 鋼製ペール4社 12名

AGF鈴鹿(株)は味の素AGF(株)の生産関係会社として2006年に発足し、「ブレンディ®」を始めとしたインスタントコーヒーやスティックコーヒー、レギュラーコーヒーなどの製造・梱包を行っています。

工場では、厳しい品質・衛生管理が実施されており、充填、梱包、検査等のラインの自動化および清浄度管理が徹底されていました。異物混入対策としてX線検査装置が導入されており厳格な対策が取られています。また、安全衛生管理面では、見学者に対しても持込品や健康状態の確認が徹底されており、入場時に、白衣、帽子と靴カバーの着用が求められ、エアシャワーおよび入念な手洗いが義務付けられています。工場内の安全意識も高く、見学ルートの多数の階段には全て注意喚起(「手摺りを持つ」など)が施されていました。SDGsへの取組みにも積極的で、工場内の環境対策や水資源の保全活動などの説明がありました。

工場見学の受け入れは、女性社員のチームがスムーズに対応し、模型や映像を効果的に使用して見学内容を分かりやすく説明する種々の工夫がされていました。

以上、異業種ではありますが、自社に転用可能と考える事柄も多くあり有意義な訪問でした。

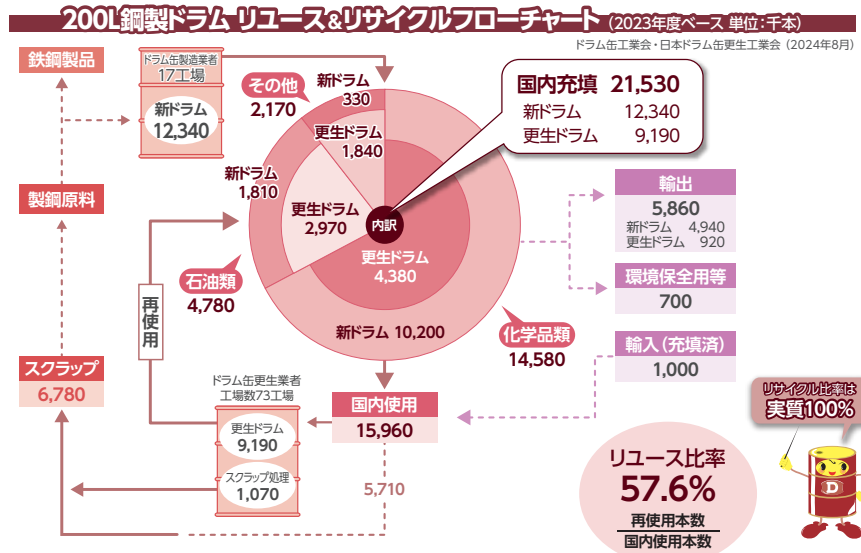


見学センターでの集合写真

鋼製ドラムは“リサイクルの優等生”です

資源としてのリサイクル比率は実質100%

鋼製ドラムは使用后、一部は更生ドラムメーカーに回収され、一部はユーザーから直接スクラップ処理業者に回収されています。ドラム缶はこのようにリユース(再使用)およびリサイクル(再利用)のシステムが確立しており、循環型リサイクルの優等生といえます。右の図は2023年度版200L鋼製ドラム リユース&リサイクルフローチャートです。ドラム缶のリユース比率は57.6%になりますが、環境保全会用ドラム缶を除くと、資源としてのリサイクル比率は実質100%になります。



	当初(1997年)	2018年度ベース	2019年度ベース	2020年度ベース	2021年度ベース	2022年度ベース	2023年度ベース
工場数	新ドラム 18工場	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	17工場 (+1)	17工場 (変わらず)
製造本数	新ドラム	12,000千本 (▲0.9%)	13,560千本 (▲3.1%)	12,820千本 (▲5.5%)	14,260千本 (+11.2%)	12,820千本 (▲10.1%)	12,340千本 (▲3.7%)
	更生ドラム	16,000千本 (+2.0%)	11,240千本 (▲4.6%)	10,090千本 (▲5.9%)	10,480千本 (+3.9%)	9,840千本 (▲6.1%)	9,190千本 (▲6.7%)
国内充填	28,000千本 (+0.4%)	25,240千本 (▲3.8%)	22,910千本 (▲5.6%)	24,740千本 (+8.0%)	22,660千本 (▲8.4%)	21,530千本 (▲5.0%)	
国内使用	26,000千本 (+0.6%)	18,820千本 (▲3.9%)	17,070千本 (▲5.6%)	18,290千本 (+7.1%)	16,850千本 (▲7.9%)	15,960千本 (▲5.3%)	
リユース比率	61.5%	59.7% (+0.8%)	59.3% (▲0.4%)	59.1% (▲0.2%)	57.3% (▲1.8%)	58.4% (+1.1%)	57.6% (▲0.8%)

ドラム缶・ペール缶の2023年度出荷実績

2023年度の200L缶の出荷は、前年度に比べ3.7%減、480千本減の12,337千本となりました。

用途別では、前年度に比べ化学向け(3.1%減、309千本減)、石油向け(5.1%減、98千本減)、塗料向け(7.5%減、48千本減)、食料品向け(9.1%減、18千本減)、その他向け(4.1%減、6千本減)、全ての分野で減少しました。

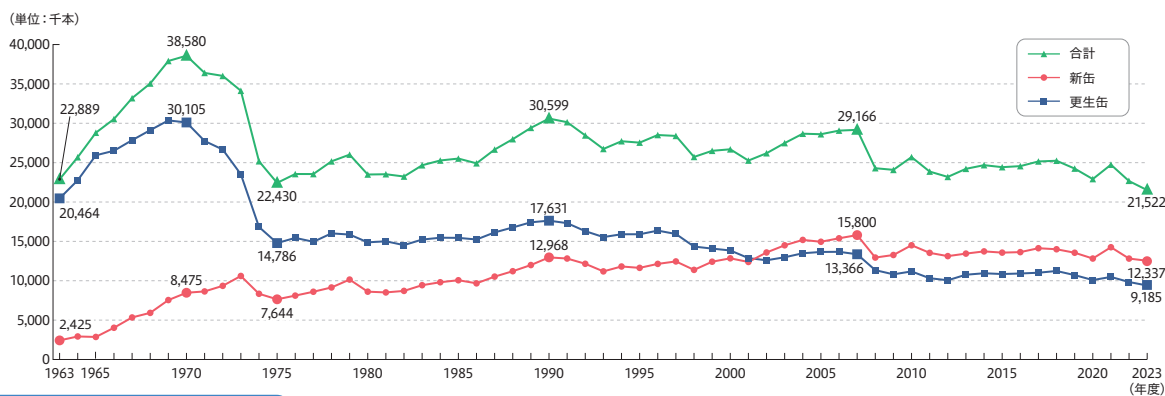
ペール缶は前年度比6.9%減の16,867千本、中小型缶は同1.9%減の388千本となりました。

2023年度缶種別・用途別出荷実績

缶種	2023年度実績						
	本数 (千本)	前年度比 (%)	用途別((本数)(千本))				
			石油	化学	塗料	食料品	その他
200L缶	12,337	96.3	1,811 (94.9)	9,604 (96.9)	597 (92.5)	182 (90.9)	144 (95.9)
ペール缶	16,867	93.1	9,212 (91.7)	6,687 (93.8)	482 (128.1)	0	487 (84.6)
中小型缶	388	98.1	0	377	0	0	11
亜鉛鉄板缶	322	91.1	0	313	4	3	1
ステンレス缶	31	78.8	0	31	0	0	0
合計	29,944	—	11,022	17,011	1,082	185	643
前年度比(%)	—	—	94.0	96.5	93.9	91.4	93.4
構成比(%)	—	—	18.0	74.5	4.7	1.4	1.4

(注) 1. 用途別200L缶、ペール缶の下端()は前年度比。
2. 前年度比ならびに、構成比は、トン数ベース。
3. 亜鉛鉄板缶、ステンレス缶は、200Lドラムおよび中小型缶を含む。 4. 総本数は、29,943,926本。表上数値は四捨五入による差異がある。

200Lドラム缶市場動向推移(1963年度~2023年度)



(注) 1. 千本以下四捨五入。
2. 1963年度の新缶生産本数は不明につき、生産トン数67,002トンと1965年暦年平均単重27.63kgで逆算して算出した。

令和6年能登半島地震の
復旧支援に対して
経済産業大臣からの
感謝状が授与されました。

前号で報告の通り、経済産業省からの緊急支援要請に応じて、鋼製ドラム缶(200L)200本を無償緊急出荷しました。これに対し、このたび経済産業大臣から感謝状が授与されました。

当工業会は、今後も鋼製ドラム缶・ペール缶の供給を通じて、社会貢献に積極的に取り組んで参ります。



会員

《正会員》

- 斎藤ドラム罐工業(株)
- JFEコンテナ(株)
- (株) ジャパンペール
- 新邦工業(株)
- ダイカン(株)
- (株) 東京ドラム罐製作所
- 東邦シートフレーム(株)
- (株) 長尾製作所
- 日鉄ドラム(株)
- (株) 前田製作所
- (株) 山本工作所

《準会員》

- 森島金属工業(株)
- 《賛助会員》
- エノモト工業(株)
- (株) 大和鉄工所
- 三喜プレス工業(株)
- (株) 城内製作所
- 東邦工板(株)
- (株) 水上工作所

ドラム缶工業会

〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
(鉄鋼会館6階)
TEL 03-3669-5141
FAX 03-3669-2969
e-mail: drum.pail@jsda.gr.jp

URL: <https://www.jsda.gr.jp/>

ひびきNo.89(2024年9月2日発行)

発行人 ドラム缶工業会
常務理事 事務局長 廣川 二郎

無断での複製、転載はお断りいたします。詳細はお問い合わせください。
本誌は環境に配慮した工程で印刷しています。